

リアル開発会議 ～オープンイノベーションの場を日本に根付かせる～

情報社会における国土・地域の成長と進化のあり方研究会
～情報生産の場“情場”研究会～
第4回研究会
2014年11月27日

日経BP社 執行役員
日経BPクリーンテック研究所長
電子・機械局長
望月 洋介
ymochizu@nikkeibp.co.jp

日経BP社

Nikkei Business Publications, Inc.



内容

□ 情報は伝わらない

- 大きな勘違い
 - 「良いものを作れば売れる」
 - 「良い政策は皆が理解してくれる」
- 日本のポジションが小さい
- 情報戦を仕掛けるべき

□ 情報を作り出す場がない

- 産業の垣根が壊れはじめた
- 異業種連携・異分野融合の場を仕掛ける
- 「リアル開発会議」から得られたこと

日本のポジションが小さい

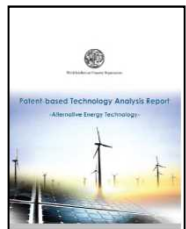
□ 世界での存在感

- アジアで韓国の存在感が非常に大きい
 - 「アジアでスマートグリッドといえば、韓国・済州島プロジェクト」
 - 「世界でスマート・モビリティといえばソウル」
 - 「韓国インチョン空港周辺のスマートシティがすごい」

□ 日本のプロジェクト

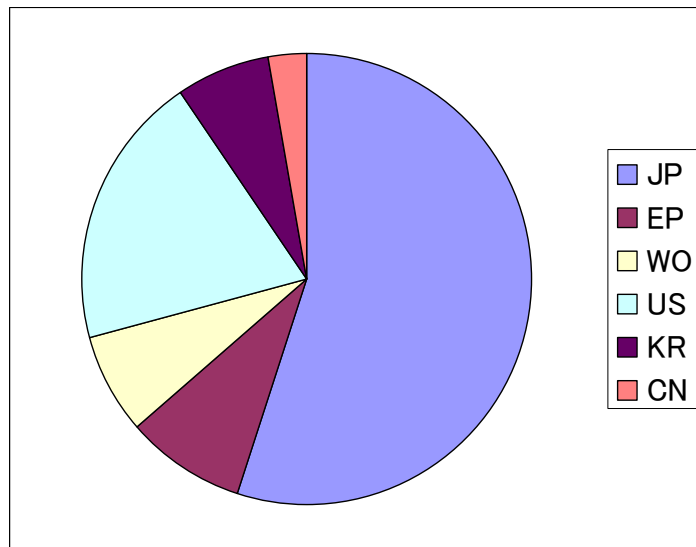
- 協力関係、情報共有が難しい
- 各省庁が所管する180のプロジェクトは独立して存在
- 各都市は競争関係のまま

情報戦で負けている



“Patent-based Technology Analysis Report”
World Intellectual Property Organization

**代替エネルギー特許
日本は世界の55%を超える**



Number of applications by
technology and patent office

クリーンテック・トップ10に 「日本」が無い

1. デンマーク
2. ドイツ
3. スウェーデン
4. 英国
5. イスラエル
6. スイス
7. 米国
8. アラブ首長国連邦
9. 中国
10. カナダ

米Sustainable World Capital社
Shawn Lesser氏がまとめた

「Ten top cleantech countries of 2009」

2010年6月21～24日に米国カリフォルニア州
アナハイムで開催された環境技術の国際会議

「Clean Technology Conference & Expo 2010」

情報戦に挑む

□ 「ヒト」「モノ」「カネ」に加えて「情報」を！

- 百度の検索に引っかからない「E-ジャパン」「u-Japan」
- 「社会インフラ事業は武器の無い戦争」。制空権をいかに握れるか
- 海外進出はメディアとともに
 - メディアは先兵、米マグロウヒル社の日本進出

□ 国際会議は国家戦略・企業戦略そのもの

Water Week (シンガポール)

- 水産業でリーダー目指しが国を挙げて開催
- 数年で世界の水産業のメッカに
- 表彰、サミット、国際会議、展示会、ビジネス会議

Smart Grid Week (韓国)

- Smart Gridで世界シェア30%目指し政府が後押し
- 2010年に第1回を済州島で開催

Grid Week (米国)

- Smart Gridで世界のリーダーを目指す米国で開催
- 標準化などの国際的な議論を展開

ワールド・フューチャー・エナジー・サミット (UAE)

- UAE・アブダビ首長国ムハンマド皇太子が提唱
- 再生可能エネルギーで持続可能な社会を目指す

- 海外の情報を日本へ
 - 世界のベストプラクティスを集約
- 日本の情報を海外へ
 - 素晴らしさ（都市情報、製品情報、技術情報）を国内そして世界へ発信



社会イノベーション2014
SOCIAL INNOVATION 2014

日経BP社

Nikkei Business Publications, Inc.

社会イノベーション/Smart City Week



66の国と地域からの参加者・来場者

アルバニア、アルジェリア、イスラエル、イラク、インド、インドネシア、ウズベキスタン、英国、エチオピア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、韓国、カンボジア、ギリシャ（ヘレニック）、ケニア、コソボ、コロンビア、サウジアラビア、サモア、ジブチ、シリア、シンガポール、ジンバブエ、スウェーデン、スペイン、スリランカ、タイ、台湾、中国、デンマーク、ドイツ、トーゴ、ドミニカ、トルクメニスタン、トルコ、日本、ニュージーランド、パプアニューギニア、パラオ、パレスチナ、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルキナファソ、ブルネイ、米国、ベトナム、ベニン、ペルー、ポーランド、ボツワナ、ポリビア、香港、マダガスカル、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、ラオス、リビア、ルワンダ、レソト、レバノン、ロシア（五十音順）



第3回自治体サミット



アジア・スマートシティ会議（横浜市）

「経験」の情報を“輸出”

「公害を克服した北九州市」



中国应该充分利用日本的经验和教训、多一些虚心、少一些偏见。

中国が謙虚に、偏見を持たずに、日本の経験と教訓を十分に生かすべきだ。

「水銀の海に魚が蘇った！水俣再生の軌跡」



很遗憾的是、曾经发生在日本的事情正在中国重演、并且要严重得多、政府和民众的漠视与对立也看不到好转的希望。

残念なのは、かつて日本で発生したことが中国で繰り返され、しかもより深刻で、政府と民衆の無関心と対立も好転の見通しが無い。

情報戦の例

日本語版

<http://jscp.nepc.or.jp/index.shtml>

日経BP社

Nikkei Business Publications, Inc.



英語版

<http://jscp.nepc.or.jp/en/index.shtml>

中国語版

<http://jscp.nepc.or.jp/cn/index.shtml>

業界の垣根が壊れはじめた

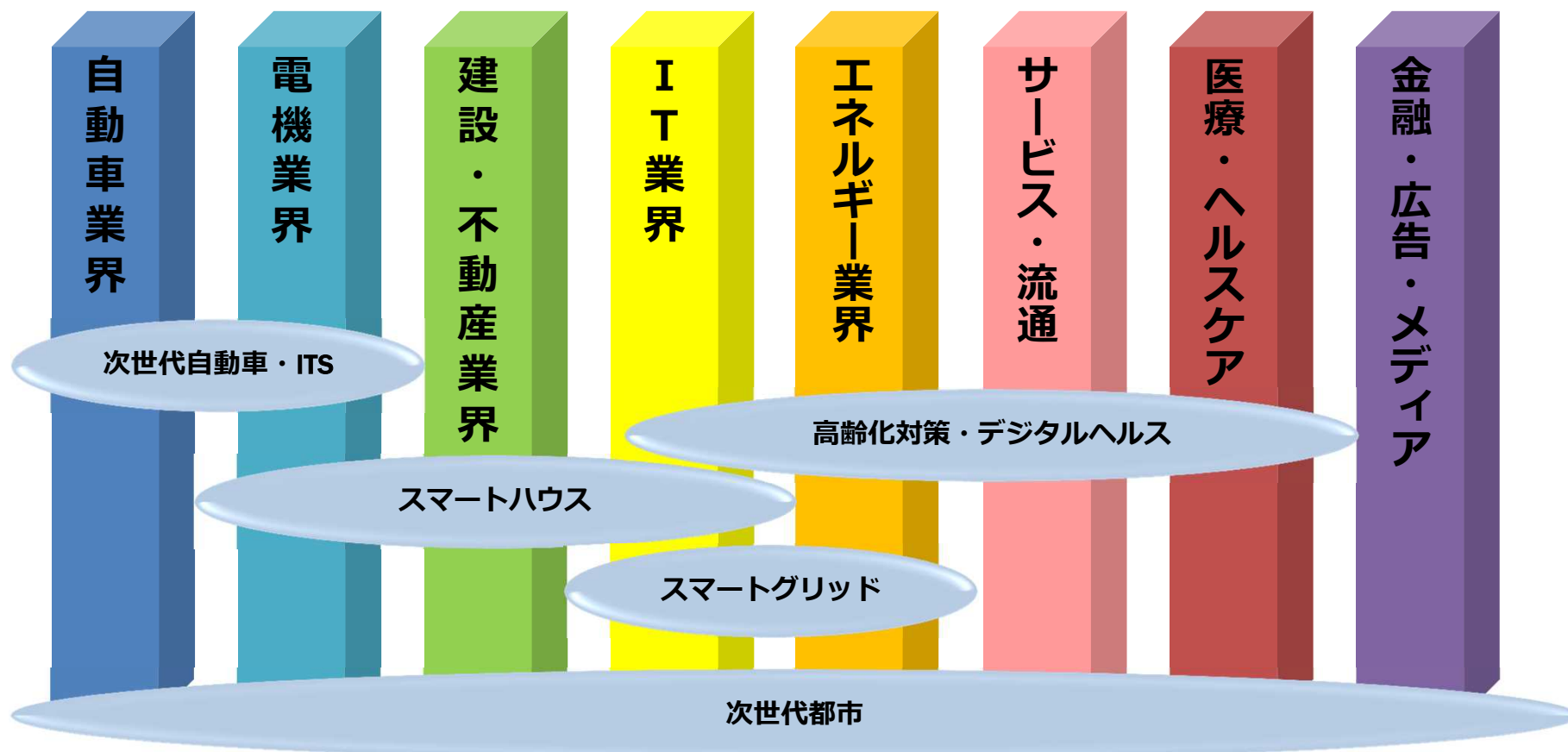
- 先進企業が業界の垣根を壊し始めた
 - デンソーが始めた事業は農業
 - トヨタが取り組む街づくり
 - 東芝は原子力・半導体に次いで医療
 - 日立は世界のインフラへ

- 人材は業界を超え始めた
 - 電子エンジニアがほしい味の素、JINS
 - 東工大の電子工学には自動車メーカーが殺到

- 先端製造技術が枠を超え始めた
 - 先端製造技術の担い手にICTベンダーが名乗り
 - 医療・農業に最先端ものづくり技術

次世代・製造業の突破口

- 「コンバージェンス」「コラボレーション」「メディチ効果」
- 新産業・新事業・新サービス・イノベーション



業界の垣根が壊れはじめた

- 異業種連携の場が必要
 - イノベーションは刺激から
 - 異業種との対話は刺激が多い
 - 連携できる場が必要
- 他社との連携
 - 経営者は全国・地域などで横連携あり
 - 技術者は学会を通して世界とネットワーク
 - 「新事業」「技術企画」の関連部署は孤立

とは言いながら、実際には場がない！

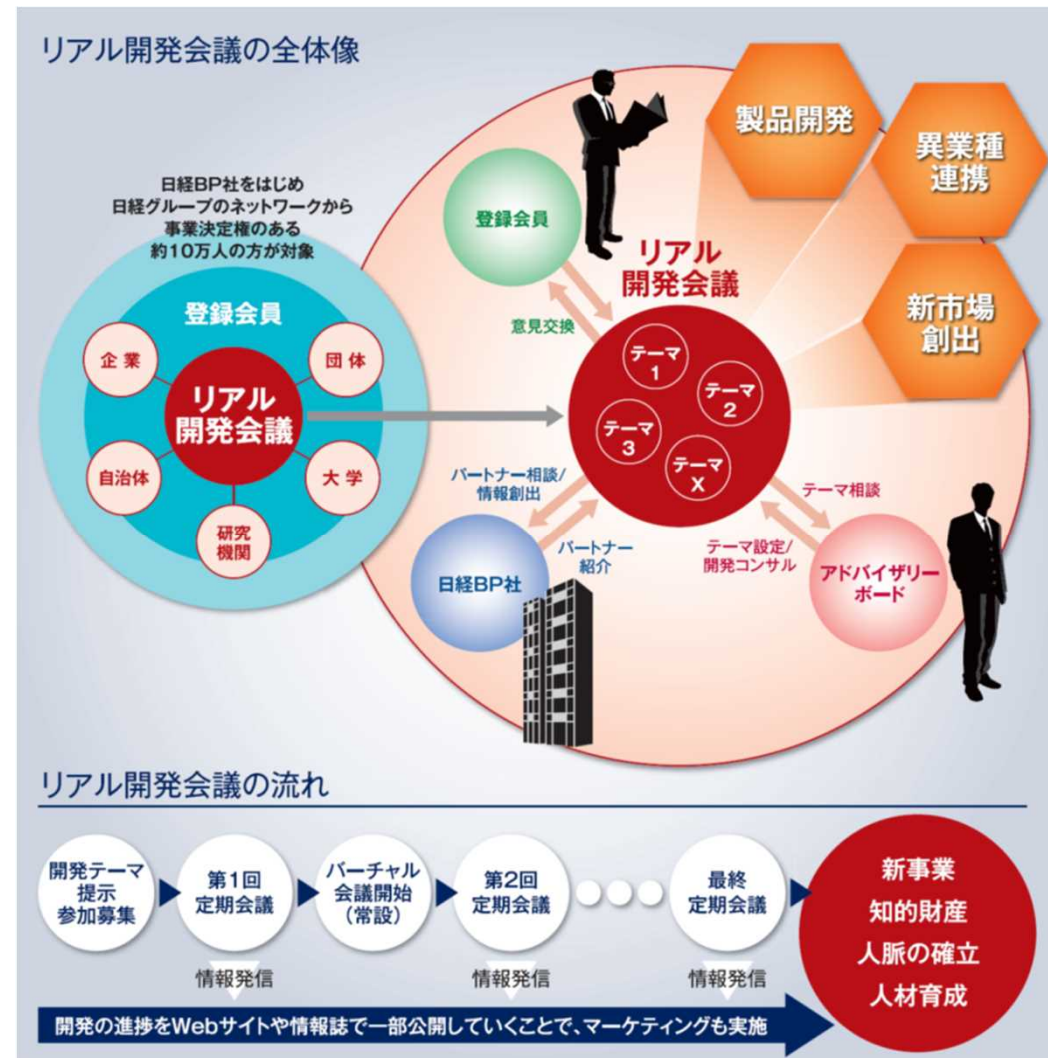
- コンプライアンス強化で企業間の会話が減少
- 公民連携、腹を割って語るができない
- シリコンバレー的解放感の欠如
- ゲイツ・ビルには何があるのか？

新時代の事業開拓者をつなぐコミュニティー
リアル開発会議

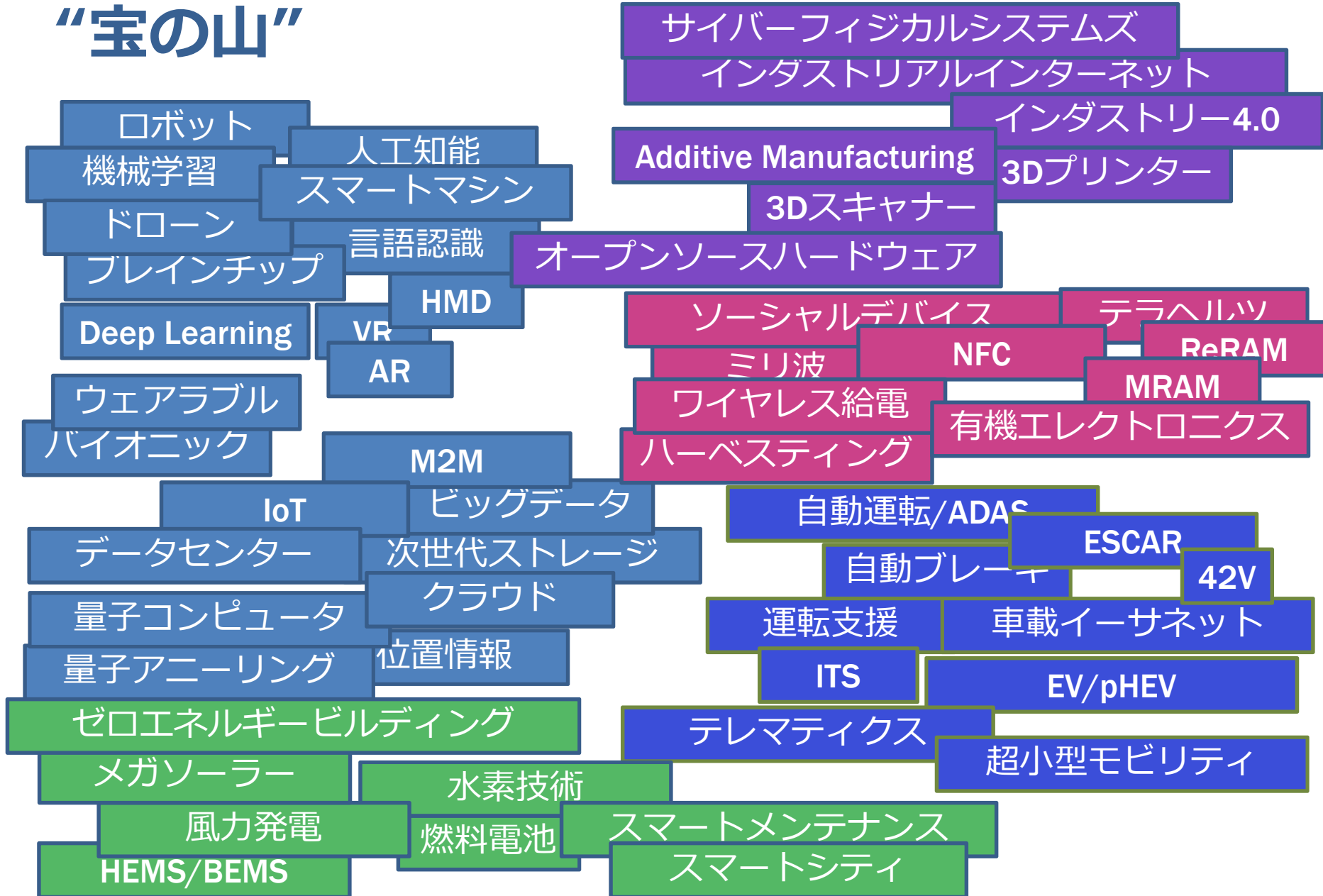
<社内開発がうまくいかない>
⇒開発は外でやる
⇒第三者の言うことは効く
⇒開発は顧客と一緒に！

<今回の枠組み>
⇒開発報道がマーケティング直結

<副産物>
⇒異業種連携の突破口
⇒人脈がビジネスを作る
⇒他流試合で人材育成



“宝の山”



新時代の事業開拓者をつなぐコミュニティー
リアル開発会議

日本中の会社でドリームチームをつくら すごい未来がやってくる。

業界、企業、技術・研究分野を越え、それぞれの強みや英知を生かして未来をつくる。日経BP社の共創プロジェクト「リアル開発会議」、始まる。

参加企業・団体、募集中 説明会 5/27(東京)・6/3(大阪) 開催

開発 No.001

発電服「電服」



人の動きで発電し、次世代の電源になる新しい衣服
ウェアラブル機器の電源となる「発電する服」。建築土木、医療機関、飲食店、介護福祉施設、スポーツの現場などさまざまなシーンで着用でき、電力供給だけでなく衣服そのものを情報端末として利用することもできる。

開発 No.002

スーパートレーニングセンター



アスリート、アーティストのための総合研修施設
高度なトレーニング環境を備えた研修施設。施設内には専門学校、治療・リハビリ施設のほか、スポーツ医学やサプリメント開発のラボも併設。アーティストにも門戸を開き、スポーツ・文化・芸術の総合研修所として活用する。

開発 No.003

食の部品化プロジェクト



食品を冷凍状態で流通させ、世界各地で様々な料理に
最新の冷凍保存技術とIT技術を活用して、食材を世界中からジャスト・イン・タイムで提供するシステム。食の安全性を確保できるばかりでなく、食材の流通範囲が広がることで和食を新興国に広めることも可能に。

開発 No.004

フィールド・モニタリングシステム



ビッグデータを活用した、農林水産業の監視システム
生産現場のセンサーから得られたビッグデータを使って、農林水産業の省力化・高生産化を実現する監視システム。電力供給には風力、太陽光、温度差などの自然エネルギーを利用。無電化地域での農林水産業の高度化にも寄与する。

開発 No.005

全自動調剤監査システム「ドラッガー」



薬局・薬剤師の業務効率を大幅に改善
調剤に義務付けられた「監査」業務を自動化するシステム。小規模な薬局でも購入可能なコストとサイズを実現し、全国5万以上の薬局に導入。患者数の増加によって、薬局/薬剤師の監査にかかる負担を大幅に軽減する。

“開発の鉄人”と
日経BP社、200名以上の
技術系専門記者が
開発を徹底支援!

リアル開発会議
Open Innovation Community

本プロジェクトの詳細が分かる情報誌を無料進呈いたします。この他、説明会の参加申し込みなど詳しくはこちらまで。

リアル開発会議

検索

<http://techon.jp/real>

日経BP社